

塩害・経年による コンクリートの 劣化対策が急務



塩害は、鉄筋コンクリート構造物の劣化に関するダメージの大きさ、発生頻度ともにトップクラスです。海に囲まれたわが国では、海岸付近、さらに凍結防止剤が散布される地域における鉄筋コンクリート構造物の塩害対策は不可欠です。

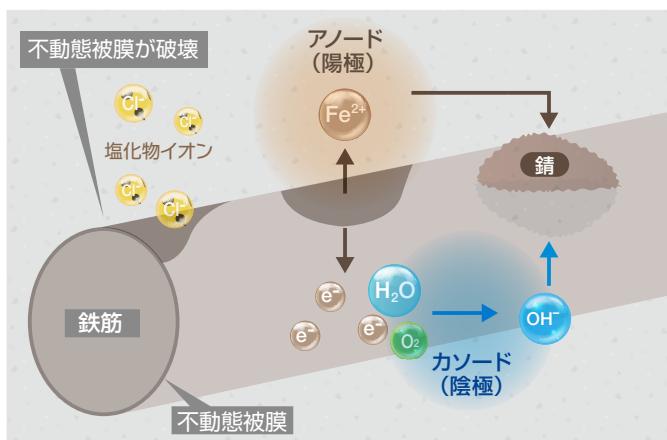


インフラの更新費・修繕費低減には、耐塩害性向上だけではなく、耐久性の高いコンクリート構造物を構築する必要があります。



クロロガードは、少量添加だけで構造物の塩害に対する抵抗性を向上させるだけでなく、長寿命化に求められる性能向上を幅広く発揮できるコンクリート混和材です。

塩害による鉄筋コンクリートの劣化メカニズム



劣化が進んだコンクリート



1袋 20kg



※製造方法:20~40kg/m³使用(1~2袋)練混ぜ、打込み:通常通り
※建設技術審査証明では上記4性能のうち
「塩化物イオン浸透抵抗性」について審査・証明されました。



建設技術審査証明事業
(土木系材料・製品・技術、道路保全技術)
建技審証 第1901号
(一財)土木研究センター

臨海部や凍結防止剤使用地域で活用

塩害のリスクが高い沿岸部、河口周辺の構造物に、活用されています。



構造物の長寿命化、高耐久化に貢献するクロロガード

クロロガードは塩害の原因となる塩化物イオンの浸透を抑え、コンクリートを長寿命化してライフサイクルコスト低減を図ることができます。

クロロガードのメリット

- 少量添加で高い耐塩害性
コンクリート1m³あたり20~40kgを添加するだけで、十分な性能を発揮
- 特殊な製造設備不要
プラント内ミキサへの直接投入が可能なのでサイロなどの設備設置は不要

- 現場打ち生コンもプレキャスト製品もOK
製造～輸送～ポンプ圧送～打込み…通常生コン同様なので、生コン使用もプレキャスト製品製造も可能
- コンクリートかぶり増厚不要
塩化物イオン浸透抵抗性が高まるので、通常のかぶり厚で、鋼材の腐食を遅らせる効果が発現

クロロガードと従来技術(材料、工法)との比較

分類	概要		効果	特長
クロロガード		生コンに粉体を投入(20~40kg/m ³)し、練り混ぜる		所定量が少ない 専用設備不要 製造の汎用性が高い
従来型 混和材	高炉スラグ微粉末 フライアッシュ (またはこれらの 混合セメント)	所定の配合で練り混ぜる	鋼材への塩化物イオンの供給量を低減する	所要量が比較的多い サイロなどの専用設備要 工程が増える。天候に左右される 型枠改造要 (コンクリート製品の場合)
従来型 技術	表面被覆工法	表面被覆塗装 (コンクリート硬化後)		
	かぶり増し厚	鉄筋かぶりを増し厚する		
	鉄筋エポキシ 樹脂塗装	あらかじめ鉄筋に樹脂塗装を施す	鋼材の防錆	準備に時間と手間を要する

配合・養生条件

コンクリートに混ぜるだけで効果を発揮

クロロガードをセメントに置換するだけで簡単に耐塩害、高耐久コンクリートが製造できます。

▶配合例

記号	W/B (%)	単位量(kg/m ³)					
		W	結合剤(B)		細骨材	粗骨材	
			N	BB			
N-クロロガード	40	168	380	-	40	753	1050
BB-クロロガード	40	168	-	380	40	741	1050
N単味	40	168	420	-	-	764	1050
BB単味	40	168	-	420	-	751	1050

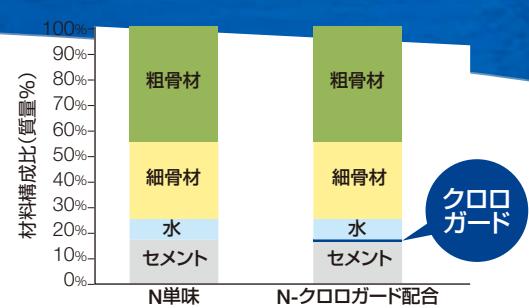
N:普通ポルトランドセメント BB:高炉セメントB種

※スランプ8±2.5cm、空気量2.0%以下(凍結融解試験は5~6%)

※配合の一例でありこれに限定されません。

■養生条件:前養生20°C~4h、昇温10°C/h、最高温度60°C~3時間、降温10°C/h、材齢1日以降は20°Cの恒温室で気中養生。

▶通常の設備で製造可能
使用量が少なくミキサへの直接投入が可能でサイロなどの設備が不要です。



※使用量は20~40kg/m³。
構造物の条件によりニーズに対応した配合設計が可能。

コンクリートに少量添加するだけで、塩害・凍害に強く長寿命なコンクリート構造物に

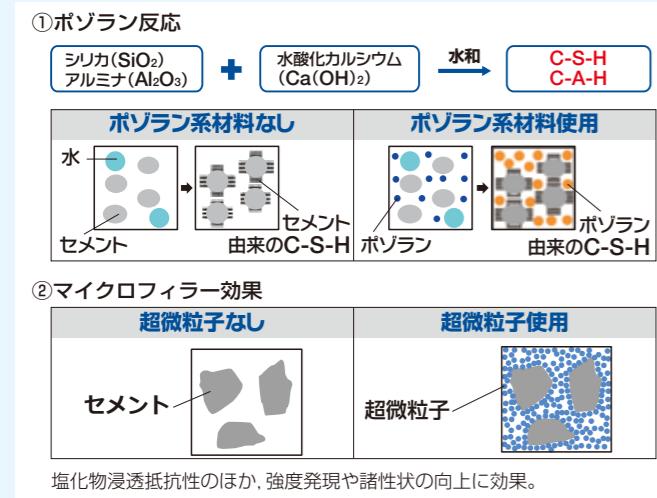
コンクリート1m³あたり20~40kgのクロロガードを添加(セメントなどの結合材の代わり)することで、コンクリートの緻密化、塩化物イオンの固定化により、耐塩害性が大幅に向上します。更に圧縮強度、乾燥収縮特性、凍結融解への抵抗性の向上によりコンクリート構造物の長寿命化に繋がります。

緻密化と塩化物イオンの固定化

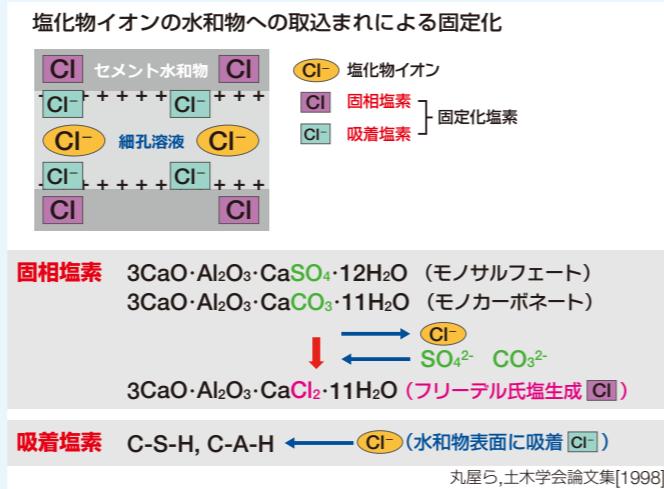
塩化物浸透抵抗性の仕組み

クロロガードはコンクリートの緻密化と塩化物イオンの固定化によって塩害の進行を抑制します。

▶緻密化



▶塩化物イオンの固定化



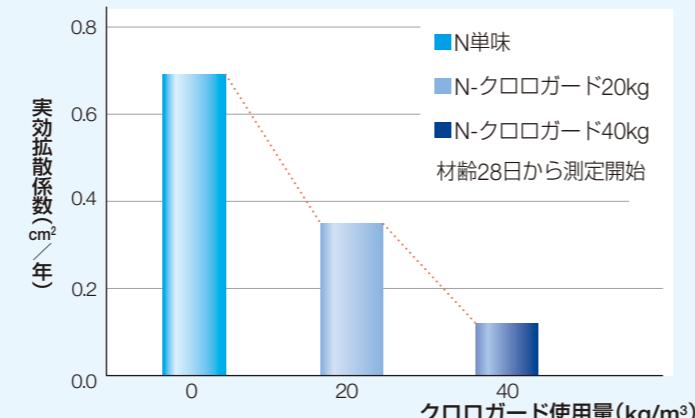
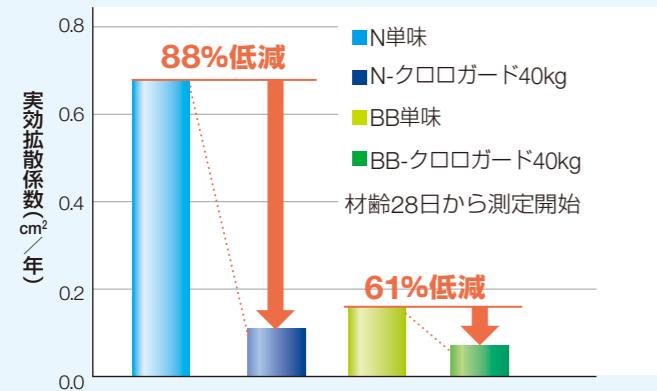
塩化物イオン拡散係数

環境・用途に応じて設計・配合が可能

所要の塩化物イオン浸透抵抗性に応じて、クロロガードを使用するコンクリートの配合設計が可能です。

※クロロガードを使用するプレキャスト製品や構造物の設計は関連する指針に準じてください。

▶塩化物イオン実効拡散係数



▶鋼材腐食開始年数の計算例

セメント種類	「クロロガード」置換量(kg/m ³)	普通ポルトランドセメント			高炉セメントB種		
		0	20	40	0	20	40
水結合材比	W/B				40%		
構造物の表面における塩化物イオン濃度(kg/m ³)	C ₀				9.0		
かぶり設計値(mm) ¹⁾	C _d				30		
実効拡散係数(cm ² /年)	D _e	0.670	0.390	0.080	0.133	0.085	0.051
換算係数	k ₁ k ₂				0.431		0.266
見掛けの拡散係数(cm ² /年)	D _{ae}	0.289	0.142	0.034	0.035	0.023	0.014
鋼材腐食開始年数(年) ²⁾		7	14	61	56	88	100以上(148)

1) 土木学会コンクリート標準示方書[設計編] 2017より、構造物のかぶりを粗骨材の最大寸法の3/2倍以上とすることを参考に、最大寸法が20mmの粗骨材を想定して設定。

2) 土木学会コンクリート標準示方書[設計編] 2017において、本計算による耐用年数の上限は100年とされることから、100年を超える場合は「100以上」と表記。()内は計算値。

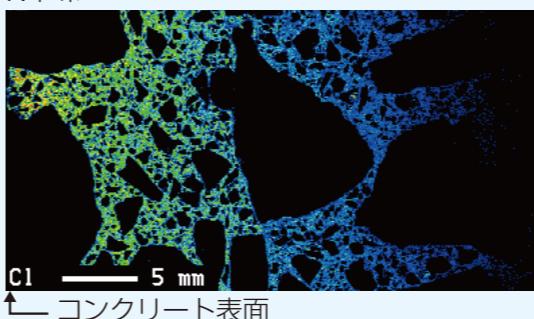
塩化物イオン濃度分布

耐塩害性を高め長寿命化

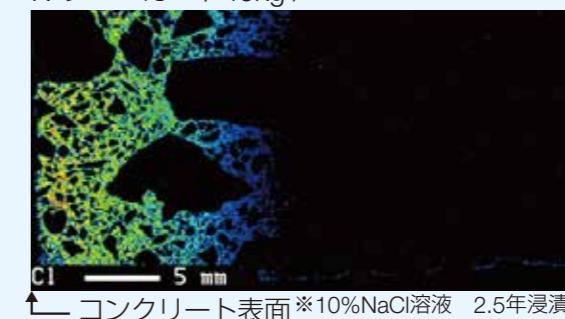
コンクリートにクロロガードを使用することにより塩化物イオンの浸透を抑え、鋼材の腐食開始年数を遅らせて長寿命化に貢献します。

▶EPMA分析による塩化物イオン濃度分布

N単味



N-クロロガード40kg /m³

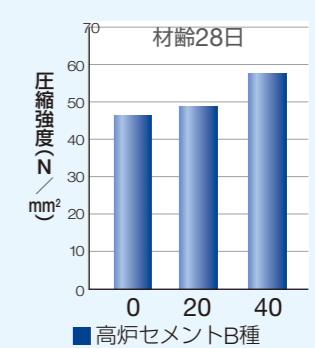
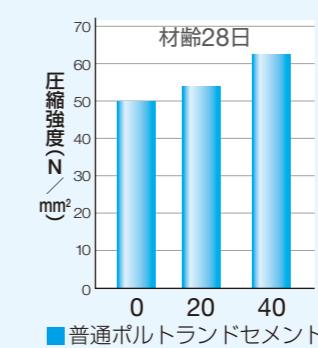
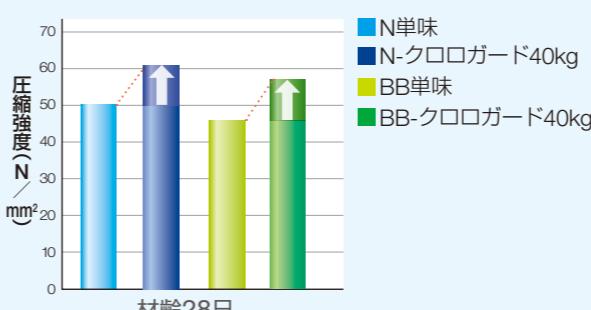


圧縮強度

高い圧縮強度を発現

クロロガードを使用したコンクリートの圧縮強度は、使用しない場合と比べて同等以上となります。

▶圧縮強度試験結果

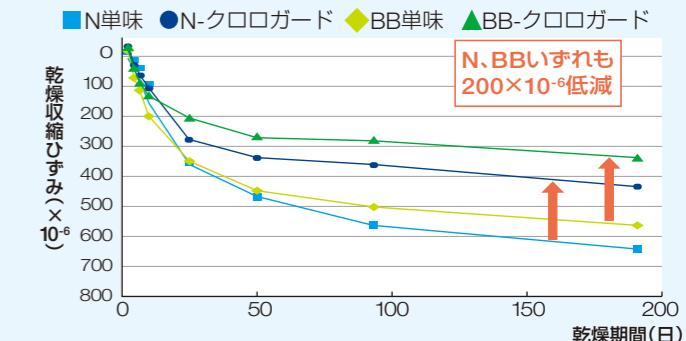


乾燥収縮

乾燥収縮が小さくひび割れを抑制

クロロガードを40kg/m³使用したコンクリートの乾燥収縮ひずみは使用しない場合と比べて200×10⁻⁶小さくなり、ひび割れ抑制に効果があります。

▶乾燥収縮ひずみの経時変化(材齢1日から測定開始)



凍結融解

高い耐凍害性により劣化を抑制

クロロガードを使用したコンクリートは空気量を5~6%に保つことにより、クロロガードを使用しない場合に比べて耐凍害性に優れます。

N単味 空気量:5.5%
N-クロロガード 空気量:5.8%
BB単味 空気量:5.2%
BB-クロロガード 空気量:6.0%

▶相対動弾性係数の経時変化(材齢14日から測定開始)

